

針ノ木岳(2820.6m)

山行日：平成 23 年 7 月 9 日(土)

メンバー：柴田、lady、石津和

コースタイム：扇沢駐車場(7:05)－大沢小屋(8:25)－雪渓取り付き(8:51)－1752m 付近(9:00)
－針ノ木峠 2536m(11:50)－針ノ木岳(13:30)－針ノ木峠下山開始(14:47)－登山道取り付き
(16:20)－鳴沢(16:51)－ヘリポート(17:30)－扇沢駐車場(18:04)

天候：晴れ時々曇り

扇沢はシーズン前なのか車が少ない。3 時までミーティングの後遺症に苦しみながら、7 時過ぎに出発した。



関電作業道路から登山道へ入る



林道をそのまま進む（地図にない）



鮮やかなタニウツギ

関電作業道から登山道に入り整備された林道に出た。柴田さんは前と違うような気がすると言いながら、赤テープがあるので何の疑いもなく進む。私は 15 年以上前のため、記憶に

無いが、もっと狭い登山道を歩いたような気がする。しばらく林道を進み、橋を渡って右岸を沢に沿って歩く。林道はハシゴ工事中の堰堤の前で途切れ、更に登山道を進むと二段の堰堤にぶつかり右岸に降りた。壊れた橋の残骸はあるが、沢を渡るすべが無い。



怖くて渡れない??



心配な柴田

先に柴田さんが渡渉して登山道の有無を確認した後、私が渡渉。続いて lady が渡ろうとするが水が冷たくて裸足では無理。靴のまま入ろうとするが、流れが怖いのか一向に動かない。30 分ほど掛けて何とか皆渡渉して、左岸の正規の登山道へ出た。ここで、我々の来た道は間違いである事に気付いたが、渡渉さえスムーズであれば、1 時間足らずで大沢小屋に着いてしまう。



末端から雪渓に降りた



針ノ木小屋から山頂へ

雪溪の登りは単調で飽きてしまうが、高度を上げるにつれ傾斜が急になり、久しぶりの体には相当に応えた。針ノ木峠の小屋のベンチで休憩して、針ノ木岳へ向かった。山頂までは所々に雪が残り、気が抜けない。石津は両足の腿が攣り、2720m 付近でリタイヤして敗退。柴田と Lady は 13:30 に無事登頂。



気が抜けない雪溪の下り

下山は大沢小屋から正規のルート歩いた。最終的にヘリポートを通過して関電作業道に出るのであるが、小さなアップダウンが続き疲れた体には厳しいルートであった。渡渉さえ気にしなければ登りのルートは道も広く距離も短くて快適である。

運動不足と前夜のミーティングは要注意であるとあらためて感じた山行であった。(石津)